

【公共交通が利用しやすくなったと感じる市民の割合】評価 ー

(分析)

- ・【H21 年度】無料の福祉バス（市内在住の 65 歳以上の高齢者のみが利用可）が運行。市民意識調査は無作為に選出された市民に対して調査を実施するため、利用できる高齢者からは評価されたが、利用できない年齢層の市民はどのように評価したのか判断が難しい。
- ・【H27 年度】H25 年 4 月に無料の福祉バス（高齢者のみ利用可）から有料のコーちゃんバス（一般の方も利用可）に変更され運行開始。複雑なバス路線を単純化する目的から、鷺津循環線の導入を実施。市民意識調査結果が低下した理由としては、公共バスの有料化や P R 不足による高齢者以外は利用できないと誤認している市民がいた等の理由が考えられる。
- ・【H28 年度】コミュニティバスの利用促進活動と共に市民からの要望聞き取りを積極的に行い、市民ニーズに対して迅速に対応し、10 月に路線変更を実施した。
- ・H27 年度と H28 年度の調査及びアンケートでは設問内容と選択肢が若干異なり、評価結果が異なるため、改めて H29 年度に H27 年度と同様の内容で調査を実施し、評価精度の向上を図る予定。
- ・近年、J R 及びコーちゃんバス、天竜浜名湖鉄道の乗員数は増加及び横ばい傾向にあり、遠鉄バス浜名線、自主運行バス浜名線は減少傾向にある。今後、公共交通が利用しやすくなったと感じる市民の割合を改善させるには、市が運行主体であるコーちゃんバス及び自主運行バス浜名線の適切なサービス内容の見直しを継続的に実施する必要がある。

(対応)

① 南北自由通路及び橋上駅舎（新所原駅周辺整備事業）【g】

→H28 年 11 月に新所原駅南北自由通路及び橋上駅舎の整備が完了し、バリアフリーに配慮したエレベーターや多目的トイレが設置され、南口からのアクセスが可能となったことにより利便性が飛躍的に向上したため、今後、公共交通が利用しやすくなったと感じる市民の割合が増加することが期待できる。

② 公共交通サービスの維持【p】

→H29 年度上旬に策定予定である公共交通網形成計画の目標を達成するために、各種施策を実施し本戦略の推進を図る。

→H29 年度中に発足予定である、市民主体の企画会議「コーちゃんバスを上手に利用する会」において、利用促進策への参加や企画を計画するなど、市民と協働で地域公共交通を育む仕組みを構築することで公共交通が利用しやすくなったと感じる市民の割合が増加することが期待できる。

③ 公共交通と地域住民を近づける仕組みづくり【r】

→現在、市内の幼稚園や保育園を対象にコーちゃんバスの乗り方教室を開催しているが、H29 年度からは小学校を対象とし総合学習の中でバスに慣れ親しんでもらう時間を設ける。今後、乗り方教室を通してバスを利用するきっかけになることが期待できる。

④ 公共交通空白地域における代替手段の検討【s】

→H29 年度からコーちゃんバス利用率の低い地域や公共交通空白地域においてデマンド運行システムの導入に向けた検討を行い、限られた財源の中で、住民満足度の高い、より効果的な運行を目指す。